

第3回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和7年8月22日（金） 10：00～
2. 開催場所 庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員
上水流 久彦 委員 ・ 児島 茂春 委員 ・ 板倉 一弥 委員
伊藤 郁夫 委員 ・ 土井 幹雄 委員 ・ 上田 正之 委員
大原 一展 委員 ・ 岡崎 輝子 委員 ・ 早川 太 委員
川崎 弘子 委員 ・ 廣澤 伸高 委員 ・ 東 泰治 委員
田邊 良三 委員 ・ 織田 みね子 委員 ・ 表 良則 委員
福元 奈津 委員 ・ 水戸 美代子 委員
4. 欠席委員
名越 千晴 委員 ・ 林 充 委員 ・ 八野 祐次 委員
今田 貴子 委員 ・ 島津 宏 委員 ・ 垣内 絵理 委員
5. 出席職員
企画振興部長 足羽 幸宏
企画振興部企画課長 田部 伸宏
企画課企画調整係長 安藤 秀明
企画課企画調整係 山上 翔大
6. 傍聴者 1名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第3回 庄原市長期総合計画審議会 次第

令和7年8月22日（金）10：00～

庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

（1）これまでの経過及び直近のスケジュール

（2）報告事項

（3）第2期の検証

（4）将来像・施策の体系等

4 その他（意見交換）

5 閉会

会議経過

1. 開会

2. 会長挨拶

前回の審議会は5月29日で、本日は約3か月ぶりとなる。前回は、皆様より一言ずつこれまでの状況についてご意見をいただいた。本日は大きな枠組みについて審議することが中心のテーマになっている。時間の関係で、全員にご意見を伺うということではなく、ご意見や疑問のある方に積極的にご発言いただく形で進めたいと思っているので、よろしくお願いします。

3. 議事

(1) これまでの経過及び直近のスケジュール

(2) 報告事項

資料により事務局が説明

会 長：クロス集計については、庁内の中でということだが、必要に応じて委員の皆様には専門部会等で要望があれば開示してご活用いただければと思っている。

事務局：承知した。

(3) 第2期の検証

(2) 将来像・施策の体系等

資料により事務局が説明

会 長：ここまでの説明について、皆様が考えられている必要なことが、この中ではどこにあてはまるのかなどを考えていただき、あてはまるものがなければどうなっているのかでも良いし、言葉そのものが分からない、施策の中で方向性が気になる等があればご意見をいただきたいと思います。

委 員：施策がたくさんある中で、緊急度や優先度をつけて実施していくのだと思うが、その中で、私自身の思いとしても、「生活交通の維持」は大事かつ緊急を要する課題だと思う。個別事例を見た時に、「JR の利用促進による交通手段の存続」とある。交通手段の存続や新たな交通手段を考えていくことが必要であることは、どの地域でも色々と取組みをしていると思うため、そこに JR と明記しなくてもよいのでは

ないか。

事務局：施策について追加資料で示しているものが全てではなく、バスやデマンドタクシー、それ以外の交通手段の確保も大事だと考えている。JR だけという意味ではない。表記が紛らわしくて申し訳ないが、様々な取組みを検討していくとご理解いただきたい。

委 員：個別事例の検討はこれからどのように考えていくのか。

事務局：現在、担当課が整理しているものを、これから専門部会でみなさんにご意見をいただきたいと考えている。

委 員：資料3の第2期庄原市長期総合計画の施策評価について、6、7、8、9が「観光・交流」となっているが、観光ではないと思う。農業や商工業は観光ではなく産業であり、「産業・交流」が正しいのではないか。

事務局：ご指摘のとおり、「産業・交流」が正しい。

委 員：施策体系（資料5）の介護福祉における「高齢者の自立支援」について、自立だけではなく行政として支援をしていくという視点から、高齢者の自立、福祉支援としたら特色が出せるのではないか。「地域福祉の向上」があるため、福祉の関連もあると思うが、この点についていかがか。

また、現在、介護施設は非常に困っている状況である。介護士を含む人材不足、国の補助金の問題等で経営が苦しくなっているため、「介護施設の支援」を入れても良いのではないか。

生活基盤についても、維持ではなく「新たなシステムの構築」の表現も入れば前向きな施策展開になると思う。

農林業の「農業の振興」について、書かれていることに間違いはないが、どのようにして生産基盤の強化を図るかということが、現在の農業における最大の課題となっている。食料安保や昨今の米問題、過疎化の進行など、生産基盤の強化は大規模農家育成のみならず、家族経営、小規模経営農家にも支援の光を当てるべきではないかと思う。そうしなければ農村、農業はますます衰退していくことは間違いない。時代に逆行するようだが現実を見れば、「中小農家の育成」は絶対に必要だと思う。

「林業の振興」については、「人材育成」を入れるべきと思う。森林管理法の改正によりこれから林業の仕事が増えてきているが、森林組合の職員確保が

難しい状況を考えると、人材育成が重要になる。林業大学校、市町の職業アカデミー学校も将来的には考えていかなければならないと思う。

事務局：施策の表現については、素案というかたちでご意見をいただきながら、今後整理していきたいと思う。

農業はこれまで「農業振興」の中に1つであったところを、目的に応じて、「安心な暮らしの充実」と「成長産業」のところに分けて入れている。ご指摘のあった中小零細農家の支援は、いわゆる安心の部分だと思う。そのような方も希望を持って農業を続けていけるようにしていかなければならないと思っている。そのようなところは、林業も含めて細かな施策で打ち出していきたいと考えている。また、専門部会でもご意見を頂戴したいと思う。

会長：「高齢者の自立支援」については、自立をしなければならないのかということにもなるため、「福祉の精神の文言を」というご指摘は同意するところもあった。事務局には改めてご検討いただきたいと思う。

商業とか工業とかのイメージの中に何が入るのかと話を聞きながら、介護施設や福祉施設も産業になるのではないかと考えたときに、人材の確保はどの介護施設も抱えている問題であるため、そのことが分かるような表現に検討しても良いのではないかと、ご意見を聞きながら思った。また、人材育成については、この中で今回新たに「リカレント教育の推進」が出されている。リカレント教育とは、人材育成ということが一番大きいと思っており、単なる趣味的な講座を勉強するのではなく、様々な知識や技能を身につけながら新しい時代に対応できる人材を育成していくという意味合いも含んでいると思う。そのことも含めて、人材育成をしっかりと行なっていくということは、言われる通りだと思う。人材育成について、文字として表現するか、リカレント教育の推進とするのかについては、色々な考え方があると思う。

「生活交通の維持」の中に新交通システムの展開、発展とある。文言も含め、ご意見のあった、既存のものを維持するだけで良いのかということやこれから出てくる自動運転等の新技術を活用した新しい交通体系についても、視野に入れてほしいと思う。

委員：「将来に希望が繋がっていく仕組みづくり」について、人材確保を是非入れていただきたい。アンケートでは、若い人が将来、庄原市に残り仕事をしたいと思っても仕事がないという意見が多くあった。庄原市内の産業について、農林業、福祉も含め様々な仕事を紹介する小冊子を作成し、庄原市内の事業所の紹介や合同企業説明会も実施しているが、人材確保には苦勞をしている。是非「人材確保」も入れてほしいと思う。

事務局：今回の総合計画における３つの柱に「人的資源の育成」があり、６月の市長の所信表明でも、人材育成はすべての施策にかかる課題であると明言している。今回、施策を考えるにあたり、人材育成については、リカレント教育としてすべてをまとめて整理するのか、すべての産業に関わることであるため、個別施策ごとに人材育成について入れるのかについて、事務局で検討させていただく。人材育成の必要性については重々認識しているため、いただいたご意見が反映できるよう努めていく。

会 長：「グローバル人材の定着」とあるが、グローバルに限定した意図はあるのか。観光のところのインバウンドという言葉が出てきているため、そのようなことも念頭におかれているのかと思うが、いかがか。

事務局：こちらについては、どちらかというとは教育の分野になる。庄原市から世界に飛び立つ人材を育成したい、そのような思いと世界的な視野を持った人材の方に庄原に関わっていただきたいとの意味も込め、グローバルという表現とした。

会 長：一案だが、ここについては、「多様な人材の確保、定着」でも良いのではないかと思った。多様なとはグローバル人材も含まれるし、今はあまり働く機会のない障害者の方、女性の活躍も謳われており、外国人材など、「多様な」と表現することにより、様々な人材を確保し、定着することが重要となるのではないかということから、グローバルだけでなくても良いのではないかと思った。表現についても、ご検討をお願いしたい。

委 員：「安全と防犯」について、６月末に東城地区内で痛ましい事件が発生した。これを受け、ＰＴＡ連合会として強い危機感を覚えている。市民ワークショップは事件前に開催されたが、事件後の現在は考え方や意見が変わってきていると思う。このことも踏まえ、考えていただきたいと思っている。また、７月末に庄原市の防犯決起集会が開催され、地区から防犯カメラが寄付され、新しく防犯カメラが設置されるが、警察署長は地域で人と人とのつながりがあることが一番の防犯対策であると言われていたため、このことも課題として検討いただきたいと思う。

資料３の１５ページにある、「小中学校の学校給食」について、牛乳の輸送コストが燃料費の高騰により上昇しているため、その反動で給食のボリュームに影響していると保護者から意見をいただいている。学校給食公会計化では、

学校教員の負担軽減、管理の効率化、食材の安定化について触れているが、日々、物価が上昇しており、保護者は不安を持っている。不安を軽減するためにもスピード感を持って対応していただきたいと思う。これらの課題について、スピード感をもって行ってほしいことがたくさんあるが、学校給食については、1 番目、2 番目に上がっている悩みであるため、検討いただければと思う。

事務局：事件については庁内でも強い衝撃を受けており、対策については色々と検討をしている。そのなかで市民の危機意識について活動をしていることも承知している。命と財産を守ることは最重要事項と考えているため、そういった施策についてはしっかりと検討をしていく。

公会計化について、今年度の食材費の高騰分については支援を予算化しているが、それが追い付いていない状況であることは教育委員会も把握している。そういうこともあり、公会計化を早急に実施していきたいという原課の思いがあるため、全体でサポートしていこうと考えている。

会長：今回、「安心な暮らしの充実」の中に、防犯・防災・減災とあるが、その中に「犯罪・事故からの安全確保」という第 2 期庄原市長期総合計画にはなかった新たな文言が出ている。もちろん、第 2 期庄原市長期総合計画でも生活の安全確保という言葉は出ているが、具体的に特徴を出すように書かれているため、重要な課題として、認識されていると感じた。専門部会でも、具体的に色々なアイデアを出し、詰めてほしいと思う。

委員：まず、行政の役割について、柱立てしたことはとても良いことだと感じている。400～500 名の市の職員は大きなシンクタンクで、これをどう活かすかがこのまちの情勢を握っている気がする。そういった意味で、このような柱立てをしたということは、ありがたいと感じている。

長期総合計画における市の事業を大別すると、「攻めの産業」と「セーフティネットの充実」という二つの柱があると思う。行政の役割としては、時間をかけて専門性の高い職員を育成することが大切だと思っている。ジョブローテーションの期間はともかく、中堅職になるとそれぞれの分野のところで複数年留まり、専門性を高めることが大事だと思っている。長期総合計画のすべてを同じスピード、同じ力量で進めていくのは難しい話であるため、国とのモデル事業を迫りかけることも必要だと思うが、市として重点的に行う優先事項を定め、「自分たちはこういう事業を行いたい、これをモデル事業にしてみないか。」という元気のある提案を、こちらから県や国に仕掛けていければよいと思う。全部は難しいが、そういう仕掛けをしながら、そこにどう市民と

協働していくかが大事だと思っている。

事務局：「安心な暮らしの充実」と「将来に希望がつながっていく仕組みづくり」は、まさにセーフティネットと成長産業を際立たせるための施策体系を考えている。事業を回していくのは職員の力にかかっている。職場環境の改善ややりがいの持てる元気な職場にするための取組みも始まっている。その1つとして、5～15年目の中堅前の職員も含めた若手職員が参加して、事業全体の中で自分の持ち場としてやり切れることは何かについて考える若手職員ワークショップも予定している。その結果についても、これからご覧いただき、様々な意見をいただければと思う。

委員：近年、自治振興区等で人材が揃っているところは素晴らしい行事をされており、その地域の住民になりたいという思いをもっている。人材育成に力を入れるとあるが、我々は様々な組織を持っている中で、その事務局長、班長、局長をお願いしても、近年は人材不足で成り手がいない。例えば、庄原市老人クラブ連合会では、理事、会長がいないため、組織が潰れるところがある。そのような団体は、庄原市内にたくさんあると思う。そのため、組織の人材育成についても計画の中に入れていただきたいと思う。近所付き合いができることは我々の楽しみでもあり、庄原の良い点であるが、組織がなくなることは、とても残念で、自分の趣味や活躍の場がなくなり、したいことができなくなることが増える。

事務局：生きがいやウェルビーイングといった、幸せな生活を送るためにも彩りの部分は重要だと思っている。人材の育成や確保が困難を極めているということについても、承知している。そのため、いただいたご意見についてもどこかに盛り込めればと考えている。

会長：これまでに出了意見から、やはりグローバル人材の定着だけで良いのかということ強く感じた。地域人材やグローバル人材、多様な人材等、人材を表す言葉は色々あると思うが、人材、人的資源の育成、グローバル人材の育成、多様な人材の確保や定着等、皆さんの意見を吸収できるような項目にできるよう、検討をお願いします。

委員：「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」のところに、「シビックプライド」の言葉があることはすごく今日的で良いが、地域おこしのための“はやり”のような使われ方をされていると感じた。シビックプライドと郷土愛の違いについて、そこに住む市民としての市民の当事者意識や自負心を含めた

ものがシビックプライドだと思っている。そのため、このような意味に合う施策の展開をお願いしたいと思う。流行り廃りではなく庄原市だからこそという部分で、地域への誇りを醸成するような施策展開をしていただきたいと思う。

また、計画策定にあたり、市の若手職員のワークショップを実施したことは、計画立案に参画したという当事者意識を醸成するためにはとても良いことなので継続していただきたいと思う。年度ごとに施策のローリングをされるとのことだが、その評価の中にも、ワークショップの参加者が入り、年度ごとの評価を行い、次年度の実行にも携わる、シビックプライドに基づいた当事者意識を施策の中で展開してほしいと思う。

説明資料ではこれまでの経過が記載されている。スケジュールの最初の5項目については令和6年度に実施され、令和7年8月19日の第2回庁内幹部会議は市長も入った会議だったと聞いている。令和6年度の前市長のときに始まった計画策定について、当時の考えでアンケートや分析がされていると思うが、新市長の今後10年間に対する思いや幹部の方々の議論等の結果などもお聞かせいただける範囲でお伝えいただきたいと思う。

事務局：長期総合計画の策定については、前市長のときにはじまり、アンケート等も実施している。新市長に変わり、これまでの経緯について説明し、新市長の思いや所信表明で述べられたまちづくりに向け、どのように整理していくかについて、時間をかけて市長、副市長と協議を重ね、各部長へは市長の思いや考え方を浸透させるため協議も行ってきた。詳細な内容については、必要に応じて専門部会でお話しさせていただければと思う。

若手職員の活用含めワークショップの実施についてはとてもありがたい提案と受け止めており、是非実施していきたいと思う。

会長：この中で新しい技術、DXやAIについて、触れている箇所がやや薄く感じる。具体的施策にはスマート農業等が出てくると思うが、新技術についてはどれくらい意識をされているのか。

事務局：薄く感じられたのであれば少々反省であるが、強く推進したいと思っている。しかし、デジタルに不慣れな方もいらっしゃるということを踏まえ、将来に向け活用できるデジタル技術は活用するということを細かい施策として打ち出していきたいと思っている。

会長：シビックプライドについてご指摘いただき、防犯・防災・減災が追加され、コンパクトなまちづくり、地域で経済循環するという新たな視点がある等、

これらが今回新たに踏み出した部分と認識している。より充実した長期総合計画にしていければと思っている。

今回提示した施策体系案については、委員の皆様から原則、承認いただきたいと思う。委員の皆様から様々なご意見が出たため、最終的な文言については委員の意見を汲み取り、事務局にて修正、一部改正のご検討をいただければと思っている。

将来像についても市長の強い思いを反映した3つの柱を打ち出している。こちらについても本会議にてご承認いただいたということによろしいか。

また、この後の専門部会で検討いただきたいことは、「庄原らしさ、庄原だったらこれという部分」が、シビックプライドという意味でも非常に重要になると思っている。庄原市の強みを検討いただき、庄原市の強みを実感し、庄原で暮らすことの良さが市内だけでなく市外にも伝わるような形で長期総合計画を練ることができればと希望している。

以上で、審議にかかる部分については終了させていただく。

4. その他（意見交換）

意見なし

5. 閉会